

奈良県立榛生昇陽高等学校 第18回入学式

式 辞

一雨ごとに季節はその歩みを進め、木々の新緑が目には鮮やかな今日のよき日、宇陀市教育長 田淵 泰央 様、本校育友会長 西岡 良恵 様、保護者の皆様方のご臨席を賜り、奈良県立榛生昇陽高等学校 第18回入学式を挙げていただけますことは、本校教職員にとりまして、この上ない喜びであり、感謝に堪えません。高壇からではありませんが心よりお礼申し上げます。

只今、入学を許可いたしました133名の皆さん、ご入学おめでとうございます。

さて、本校は、平成16年4月に榛原高校と室生高校が統合し、両校の特色と魅力を合わせ持つ高等学校として開校いたしました。

「榛生昇陽」というこの校名は、榛原・室生のそれぞれから一文字ずつ受け継いで、「榛生（しんせい）」とし、朝日が昇ることを意味する、「昇陽（しょうよう）」と組み合わせ、奈良県東部に位置する本校が、昇る朝日の如く、「明るく」、「力強く」、発展することを願って命名されました。

また一方、本校の歴史を紐解けば、旧制宇陀高等女学校が本校の前身であり、女学校が創立した大正12年から数えて、本校は今年で99年目を迎え、令和5年度には創立100周年記念事業の実施が予定されている、県内でも指折りの歴史と伝統を誇る学校であることも知っておいていただきたいと思えます。

さらに、令和4年（2022年）4月から、本校は大宇陀高等学校と統合し、宇陀高等学校として開校いたします。お互い100年の歴史を持つ伝統ある学校です。その伝統は、宇陀高等学校になっても脈々と引き継がれ、新しい歴史を刻んでいくこととなります。

本校が榛生昇陽高校として出発して以来、「社会に貢献できる人材を育成すること」を基本理念とし、その実現のため、「自己を磨き、生き方を学び、未来に挑戦する」という学校目標を定めて取り組んでいます。

まず、「自己を磨く」ですが、皆さん一人一人に素質や才能、そして個性があり、無限の可能性を秘めています。しかし、いかに優れた素質や才能があっても、自分を磨かなければ、その才能や素質を生かすことはできません。自分を磨くことで、自分の才能や素質が発見でき、また、課題も見えてきます。この課題を克服する努力を続けることが、「自己を磨く」ことにつながります。また、「自己を磨く」ために、新入生の皆さんには、是非、部活動や生徒会活動に参加し、充実した日々を送ってもらいたいと考えています。部活動や生徒会活動に3年間取り組み、学業との両立を果たそうと努力することが、自己を磨くことに繋がり、その結果、大きく成長できると確信しています。

次に、「生き方を学ぶ」ですが、いくら優れた素質や才能があっても、自分一人の力だけで課題を克服しようとする、どうしても行き詰まったり、無理が生じたりします。そのようなときに、先人の発明・発見や知識を学習したり、実習やボランティア活動において実社会で活躍する社会人の方々と一緒に汗を流して経験を積むことで、課題の克

服がよりたやすくなると思います。このように学習とは、先人や、様々な分野で社会を支えている人々の「生き方を学ぶ」ことであり、自分の課題の克服に大いに役立ちます。

そして、「未来に挑戦する」です。「生き方を学び」、「自己を磨く」努力を続けることは、すべて「未来に挑戦する」ためであると思います。若い皆さんには、挑戦する機会がたくさんあります。そして、失敗してもやり直す時間もたくさんあります。失敗を恐れずに、まず挑戦する、行動する勇気を持ち続けることが大切です。決して現状に甘んじることなく、さらに発展や向上することを目指して、果敢に挑戦してほしいと思います。

この「自己を磨き、生き方を学び、未来に挑戦する」という学校目標を胸にしっかりと刻み、これからの学校生活を前向きに送ってくれることを願っています。

終わりにになりましたが、保護者の皆さま、本日は誠にありがとうございます。この機会に、一言お願いを申し上げます。

人生の中でも多感な高校時代は、親から自立しはじめ、さまざまなことで、心のゆれ幅が大きくなる時期です。お子様に関わって、何か心配ごとなどおありのときは、どうぞ本校教職員にご相談ください。皆様方と学校が緊密に連携することで、お子様の健やかな成長が図れるものと考えています。

保護者の皆様方には、本校教育の推進に対しまして、ご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

令和3年4月9日

奈良県立榛生昇陽高等学校

校長 西浦 太衛門